

令和7年度第2回文京区立中学校部活動地域展開に係る合同部活動検討ワーキング・グループ 記録の概要

日時：令和7年6月24日(火) 14時30分から16時00分まで

場所：オンライン

○「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」 最終とりまとめ概要

【事務局からの説明】

- ・「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」は、2024年8月に開催が始まった国の会議体である。学校部活動の地域移行に関する政策を進めるため、「地域におけるスポーツ・文化芸術活動の機会の充実」や、「持続可能な部活動の在り方」を検討する目的で設置された。
- ・資料1は、最終とりまとめとして令和7年5月16日に発表されたもの。

(1) 改革の理念及び基本的な考え方等

【事務局からの説明】

- ・部活動改革の主目的が述べられている。
- ・地域クラブ活動における「教育的意義を継承する」ことについては、保護者や地域、議会からの注目度が高い。
- ・民間のクラブチーム等との区別など、この部分の整理が必要となる。

(2) 今後の改革の方向性

【事務局からの説明】

- ・休日については「次期改革期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す」とされている一方で、平日については具体的な期限は示されていない。
- ・「費用負担の在り方等」では受益者負担について触れられており、区としては国や都の補助金をしっかりと確保していきたい。
- ・受益者負担の水準については、年末年始あたりに発表があるとのこと。

(3) 学習指導要領における取扱い

【事務局からの説明】

- ・学習指導要領の次期改訂においては、部活動に関する記載が一切無くなるということは無さそうである。

【主な意見等】

- ・子供たちが混乱しないよう、平日と休日の棲み分けが必要。
- ・子供たちが「新しい価値」を感じられるのか疑問。
- ・「新たな価値」が漠然としている。失われていく価値もあると思うので、メリット・デメリットの両方を提示し、検討していくべき。
- ・土日と平日でコーチやチームが異なることにより、方針の違いで子供たちが振り回されないか懸念している。

- ・サッカー部は合同部活動を実施しているが、順位決定戦で文京区の学校同士が対戦した。指導者も同じなのに、その後の展開や、より上位の大会で同様の状況になった場合の対応が難しいと思った。運営自体は比較的スムーズだったに進んでいる。
- ・地域クラブになると金銭的に厳しい子もいる。そこを切り捨てしまうのはいかがかと思う。
- ・同じ学校の同じ部活でも勝ちたい生徒と楽しみたい生徒がいる。人数が多くなるともっと大変だと思う。
- ・休日の部活動では手当が支給されるが平日では支給されないため、平日の方が負担が大きいと思っている教員は多い。平日の改革も一緒に進めていくべき。
- ・すぐにでも地域展開したい部活動もある。
- ・今でも外部指導員や専門員はいるが、教員が入らないとうまくいかないところがあるという話もよく聞く。
- ・教員がいないと生徒のメンタルケアやけがの対応は難しいと思う。
- ・どこまでやれば地域移行したといえるのか基準が分からない。

○休日の合同部活動の実施に向けた児童・生徒アンケートの結果

【事務局からの説明】

- ・休日の部活動について、運動部の合同部活動に参加したい児童生徒は 26%であった。
- ・休日の部活動への参加の仕方として、「休日は休みたい」と回答した児童生徒が最も多く、34%だった。
- ・休日の合同部活動に期待することとして、競技力や技術の向上という回答が最も多く、心配なこととしては、新しい仲間ができるかという回答が最も多かった。
- ・新種目に関する設問では、運動部ではボウリング、文化部ではeスポーツが一番人気だった。

○合同部活動の方向性

【事務局からの説明】

- ・区の「実施計画 2026 の目標」は「休日における部活動の教員に頼らない指導体制の構築」であり、国のガイドラインに沿っている。
- ・実施計画 2026 では、令和 8 年度から合同部活動を実施し、それを地域クラブ活動に移行していく計画となっている。

(1) 協議事項 1：休日の活動の運営及び指導を外部委託することについて

【事務局からの説明】

- ・令和 8 年度から「休日の合同部活動」を実施する計画となっているが、指導者の確保を持続可能な形にするため、また、教員の負担軽減にもつながることから、令和 8 年度から休日の部活動の運営及び指導は外部に委託して「地域クラブ活動」とすることを提案する。
- ・参考として、令和 5 年度に教員向けに実施したアンケート「部活動が「地域移行・地域連携」された場合の指導への関わり方について」の結果は以下のとおり。
 - 「全面的に指導に関わりたい」 9%
 - 「部分的に指導に関わりたい」 27%
 - 「指導に関わるか悩んでいる」 23%

「指導に関わりたくない」38%

- ・一方で、現状維持したい教員は続けても良い。現在の部活動を継続するか、学校・部活単位で選択できる。ただし、希望の部活動が自校にない生徒のために、地域クラブはつくっておく必要がある。生徒と教員の意見が異なる場合は、互いの合意形成を経る必要がある。
- ・現在任用している部活動指導員については、外部委託後も希望者は関われる協力体制を検討している。

【主な意見等】

- ・外部委託の報酬と土日教員の手当の金額が違うのはダブルスタンダードとなるため、考慮してほしい。
- ・応用レベルと基礎レベルどちらを教えてほしいかは生徒によるので、そのニーズには応えるべき。
- ・人材確保ができるなら可能だと思う。
- ・子供のニーズを汲んでほしい。
- ・学校選択の一環として、学校もいろんなレベルの部活があると良いと思う。

(2) 協議事項2：多様な休日の部活動の形について

【事務局からの説明】

- ・休日の合同部活動の実施は、種目や学校の実態等に応じた対応をとる必要がある。
- ・合同部活動の実施を、令和8年度の2学期とし、令和8年度の1学期は、トライアル期間とするなど、「助走の期間」を設ける必要がある。
- ・休日の活動の仕方として、3つのパターンから学校や部ごとに選択できるようにすることを提案。
- ・長期休業中等は活動日としないなど、生徒にとって無理のない計画とするとともに、オフシーズンの設置についても検討。

【主な意見等】

- ・集め方が問題。色んな価値観・レベルの生徒が集まると難しいと思う。レベル別で集めれば子供のニーズに応えられるのでは。
- ・平日でも塾や習い事で生徒が全員集まらないときがある。休日の練習試合でも同様のため、土日の両方に開いてもらい、生徒が行けるときに行けるような形をとれると良い。

(3) 協議事項3：新種目「ボウリングクラブ」の設置について

【事務局からの説明】

- ・アンケート結果より、重点戦略3「新たな種目での合同部活動」として、ボウリングの設置が考えられる。
- ・ボウリング部のある中学校に笹塚中学校があり、公立でもボウリングに取り組むことが可能であると分かる。渋谷区は地域クラブとしてのボウリングクラブもある。

○その他

- ・次回開催日程の確認
- ・今後の予定